

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年6月2日（水）
- 2 確認箇所
瓦礫類一時保管エリアX（固体廃棄物貯蔵庫第1棟、第2棟東側）
- 3 確認項目
瓦礫類一時保管エリアXにおける瓦礫類収納容器からの水漏れの対応状況

4 確認結果の概要

東京電力では、本年3月に確認された瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）W2に保管していた瓦礫類収納容器からの放射性物質漏えい事案を踏まえ、4月から容器収納やシート養生が必要な一時保管エリアにおいて収納容器の外観目視点検を実施している。

当該外観目視点検作業を実施している一時保管エリアXにおいて、6月1日14時55分頃、瓦礫類収納容器（コンテナ）からの水漏れ*が確認されたことから、対応状況等を確認した。（図1）

- ・現地確認時には作業は行われておらず、水漏れがあったコンテナは健全な二つのコンテナの上に置かれており、漏えい箇所下部には受タンクが設置されていた。また、コンクリート床面には吸水マットが敷かれていた。

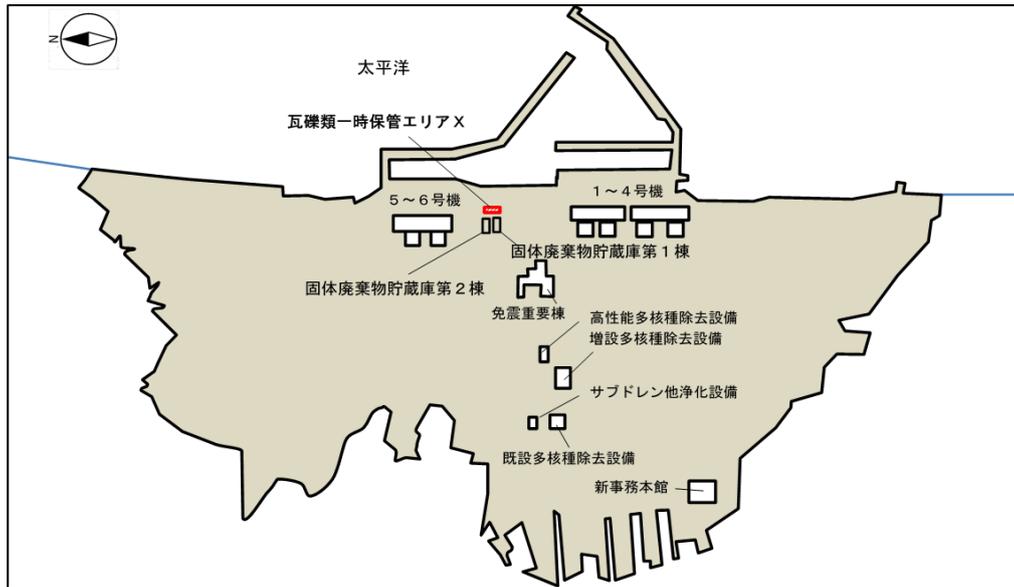
（写真1）

- ・漏えい箇所と想定される箇所はテープで補修されており、水の滴下等は確認されなかった。（写真2）
- ・漏えい箇所下部に置かれていた受タンクには水は溜まっていなかったが、エリア内の別の場所に置かれていた水漏れ時に漏えいした水を受けたタンクには茶褐色の水が溜まっていた。（写真3）
- ・確認した範囲では、漏えい箇所周辺、漏えい箇所下部及び周辺のコンクリート床面等の表面線量率はエリア内の他の箇所と同程度であり、水漏れによる影響の拡がりは認められなかった。

※一時保管エリアXにおける瓦礫類収納容器からの水漏れ

6月1日14時55分頃、瓦礫類収納容器の外観点検を行っていた作業員が収納容器下部から水が漏れている（漏えい範囲：約2m×2m×深さ1mm）ことを発見したもので、漏えい箇所の下部に受けタンクを設置するとともに吸水マットにより漏えい拡大防止養生を実施し、側溝等への流入はなかった。漏えい停止確認後に漏えい箇所の補修を行い同日19時頃完了した。漏えいした水の分析結果は以下のとおりであった。

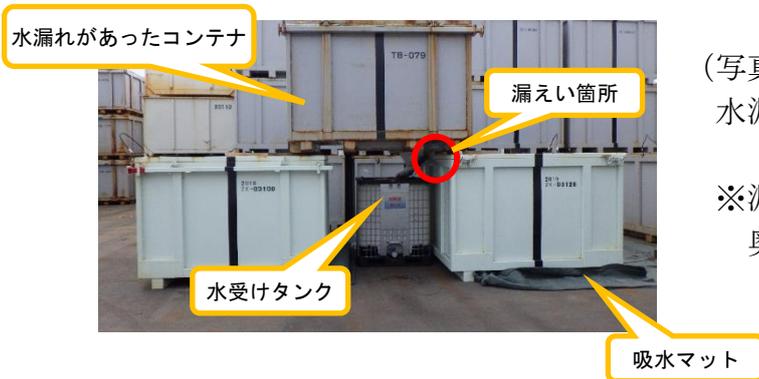
セシウム134：24Bq/L セシウム137：610Bq/L 全ベータ：760Bq/L



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
一時保管エリアX入口付近の概観
(西側から撮影)



(写真1-2)
水漏れのあったコンテナの状況
(南側から撮影)
※漏えい箇所はコンテナ北側(写真奥側)の下部



(写真1-3)

漏えい箇所の状況

(南側から撮影)

※漏えい箇所はコンテナ北側(写真奥側)の下部



(写真2)

漏えい箇所の補修状況

(北側から撮影)



(写真3)

漏えいした水を受けたタンクの状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。